

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 9 月 27 日 11:34 AM 更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 34,000～40,000 円

[NY ダウ]

【当面の想定レンジ】 39,600～42,500 ドル

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 16,900～18,700

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 137.000～151.000 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 99.578～103.546

エリオット波動とは

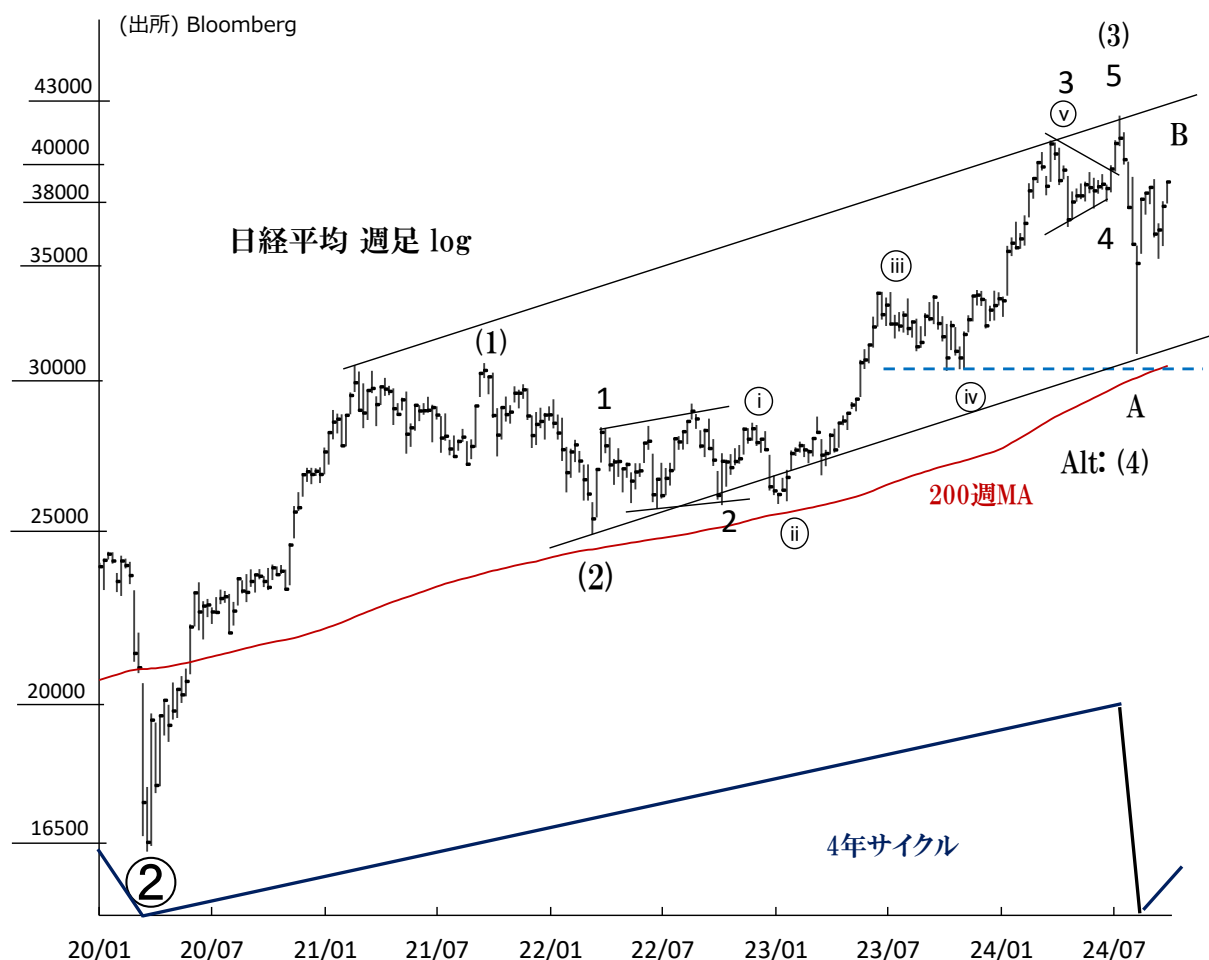
株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は5つの上昇波と3つの下降波（合計8つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均



【週足 エリオット波動分析】

42,426 円(7/11 高値)以来の第(4)波(インターミディエイト級)中 A 波は、31,156 円(8/5 安値)を以て終わったとみられます。それは 20 年 3 月以来の 4 年サイクル底に相当します。

8 月 5 日安値からの上昇が、第(4)波中 B 波に当たるのか、第(5)波による上昇に入ったかを判断するにはまだ少し時間が必要です(詳細については時間足分析をご覧ください)。

ただいずれにしても、25 年に日経平均は 42,426 円を上抜き、最高値を更新する可能性が高い、とみています。

9 月 27 日、日経平均は年初からの需給的なレジスタンス価格帯[3 万 8000 円～3 万 9000 円]を上抜き始めました。一方、TOPIX は同様の価格帯[2718～2753]を、まだ上抜けていません。

日経平均と TOPIX の両方が需給面の上値のカベを上抜くかに注目です。日本株市場は当面の正念場を迎えた、といえそうです。



【日足 エリオット波動分析】

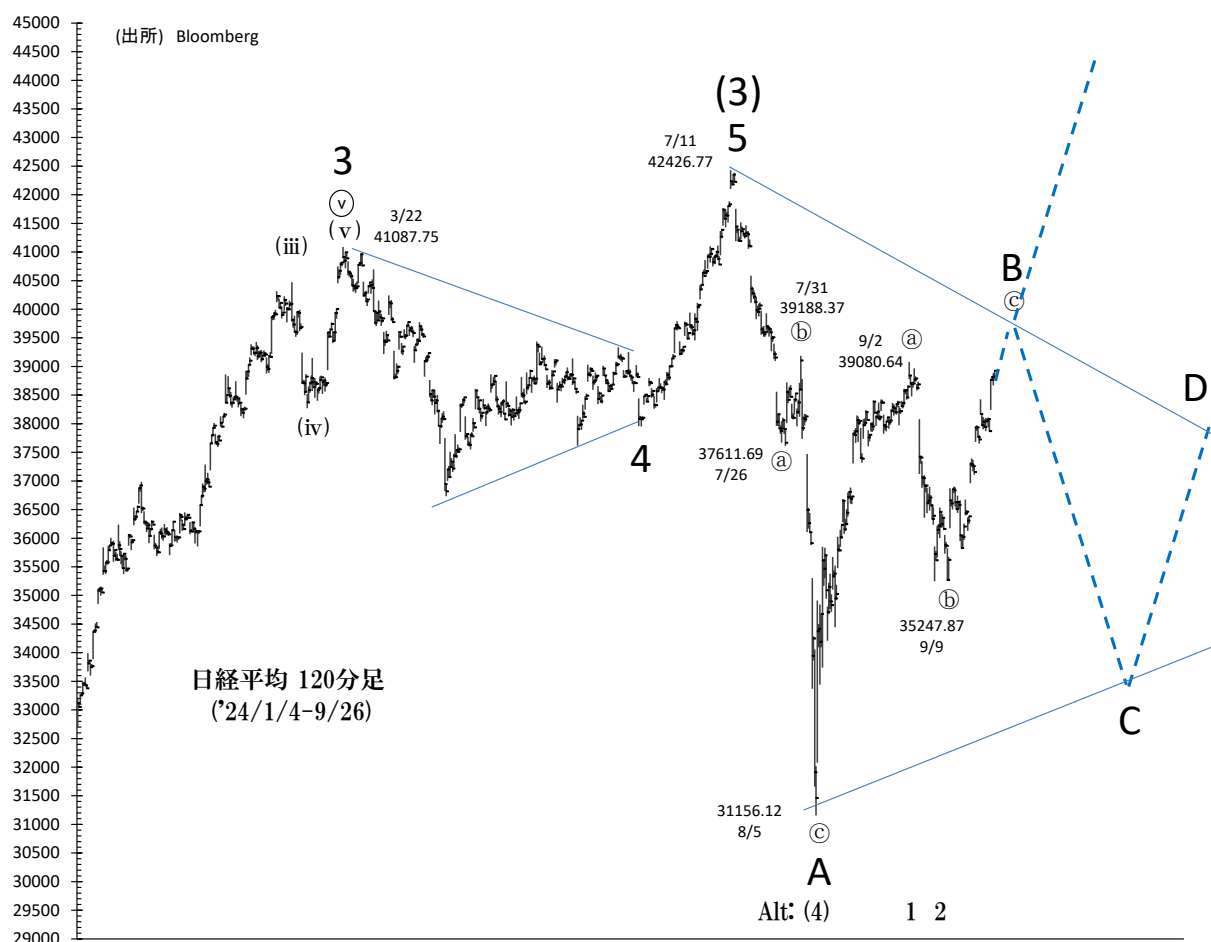
9月26日の日経平均予想EPSは2473.03円と過去最高を更新しました。初のEPS＝2500円が明確に視野に入っています。EPS2500円、PER18倍と仮定すると4万5000円という水準が得られますが、それは25年の日経平均ターゲット候補として要注目です。

27日前場、日経平均は39,080円(9/2高値)を上抜きました。ただし執筆時点で、TOPIXは2740.69(9/3高値)を上回っておらず、日経平均の強気形状はTOPIXからは確認されていません。

TOPIXが日経平均の強さにキャッチアップできない限り、7月以降の第(4)波が[トライアングル]のような、保ち合いパターンを形成中という見方は有効です。

一方、日経平均に続きTOPIXも9月3日高値(2740.69)を上抜けば、戻り売り圧力の強い価格帯(前述)もクリアします。この場合、日経平均は当面、4万円処を打診するでしょう。

[40,014円]…7月～8月の下落に対し78.6%戻り水準



【時間足 エリオット波動分析】

足元、波動カウントには以下 2 つのオプションが存在します。

①第(4)波継続中～10 月～11 月二番底シナリオ

7 月高値以来の第(4)波は[トライアングル(A-B-C-D-E)]。

31,156 円(8/5 安値)からの B 波((a)-(b)-(c))によるリバウンドは、4 万円処までに完了するでしょう。

B 波完了後は、C 波の下げが始まります。この C 波により日経平均は 10 月～11 月に二番底を付けるでしょう。

②第(5)波入り～高値更新へ

4 万円を終値でも回復すると、31,156 円(8/5 安値)を起点に第(5)波による強気相場に入った、という見方が現実味を帯びてきます。35,247 円(9/9 安値)からは第(5)波-3 波に位置付けられ、それにより日経平均は、42,426 円を上抜き最高値を更新するとみられます。

[日経平均 4 年サイクル]



NY ダウ



【日足 エリオット波動分析】

22 年 10 月安値(28,660ドル)以来の上昇は(B)波とカウントされ、(B)波のパターンは[ダブル・ジグザグ(W-X-Y)]を想定しています。

23 年 10 月安値(32,327ドル)からの上昇は Y 波に当たります。Y 波の上値メドは[42,118ドル]です。
[42,118ドル]…(B)波中、W 波と Y 波の上昇幅が 1:1.618 になる水準

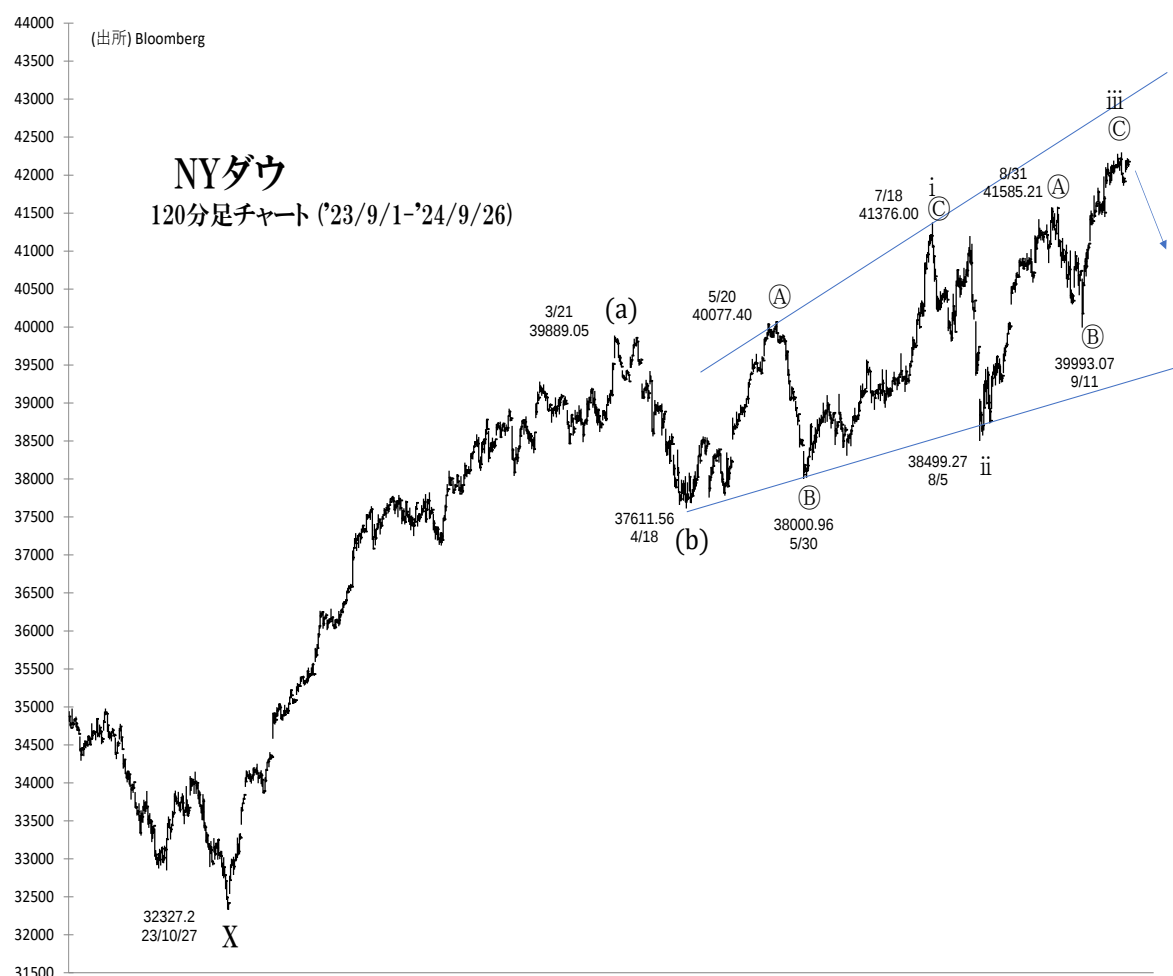
9 月 19 日に NY ダウは初の 4 万 2000ドル台へ上昇しました(25 日には一時 42,299ドル)。当面の高値はいつ付けてもおかしくありません。

Y 波の編成は [ジグザグ(a)-(b)-(c)]になります。

さらに 37,611ドル(4/18 安値)からの上昇を Y 波中(c)波とみることができ、この(c)波を筆者は、上昇局面の最後に現れる[(エクスパンディング)ダイアゴナル]とみています。

(c)波完成を以て(B)波全体も完成するわけですが、その後は(C)波による調整が続くことになります。

(C)波は 22 年 10 月安値を目指す、大きな下降波になることが想定されます。



【時間足 エリオット波動分析】

23 年 10 月安値・32,327 ドルからの Y 波は、(a)–(b)–(c)[ジグザグ]編成となります。37,611 ドル(4/18 安値)以来、(c)波による上昇とみられます。

23 年 10 月～24 年 3 月までの上昇(a)波は、一貫して上昇するシンプルな形状ですが、(c)波は波の重複が目立つチョッピー(choppy)な形状です。これは(c)波が[(エクспанディング)ダイアゴナル]を形成中であることを示唆しています。

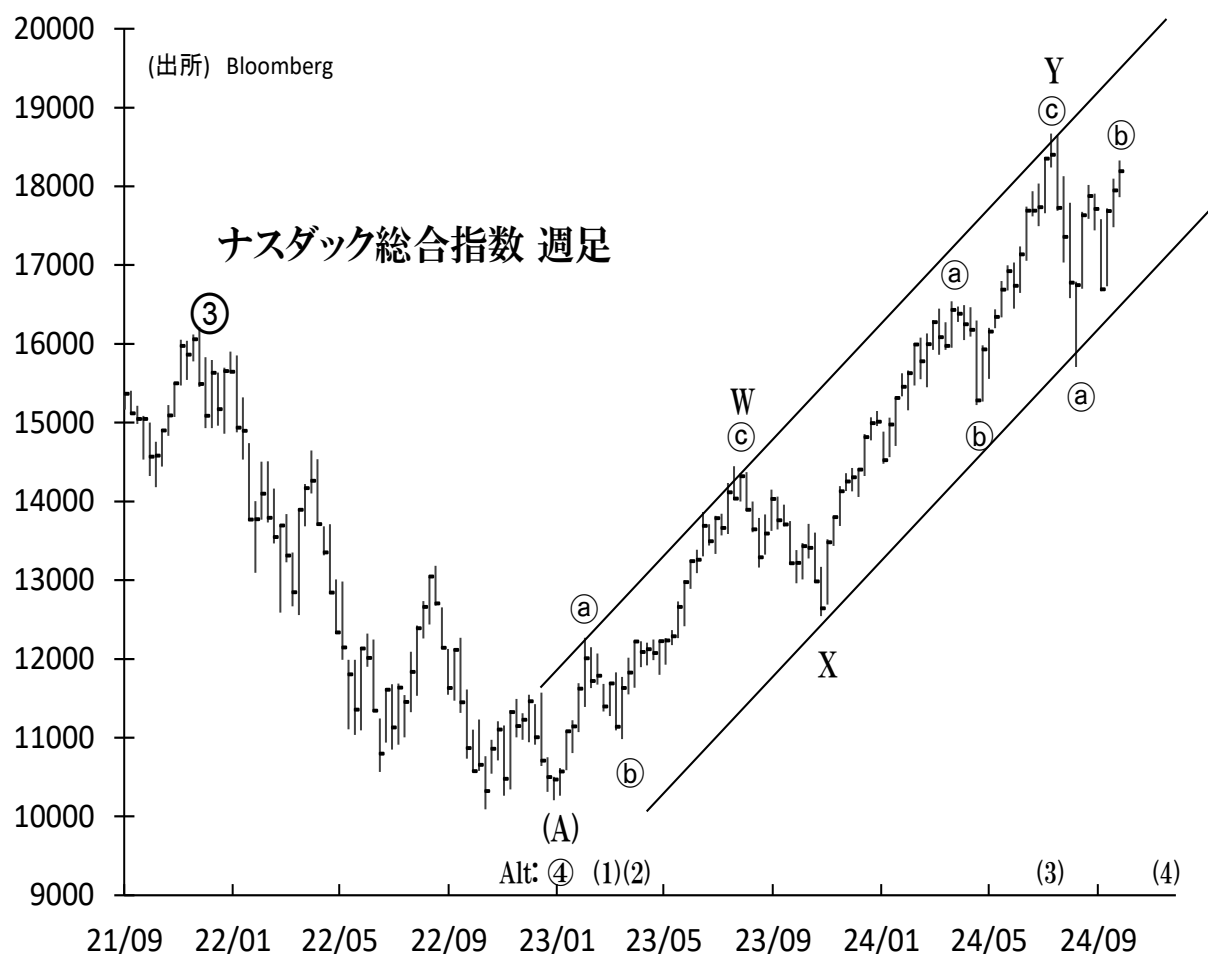
[エクспанディング・ダイアゴナル]は第 i 波～第 v 波から成り立ち、各々は三波構成(A–B–C)となります。

38,499 ドル(8/5 安値)からは、(c)波中第 iii 波の上昇とみられます。

この第 iii 波は[ジグザグ(A–B–C)]編成であり、39,993 ドル(9/11 安値)からの上昇は、第 iii 波中の C 波とカウントされます。

先に書いたように、9 月 19 日に NY ダウはチャート節目に達しており、第 iii 波はいつ終わってもおかしくありません。この見方が正しければ、**第 iv 波による調整がまもなく始まるでしょう。**

ナスダック



【週足 エリオット波動分析】

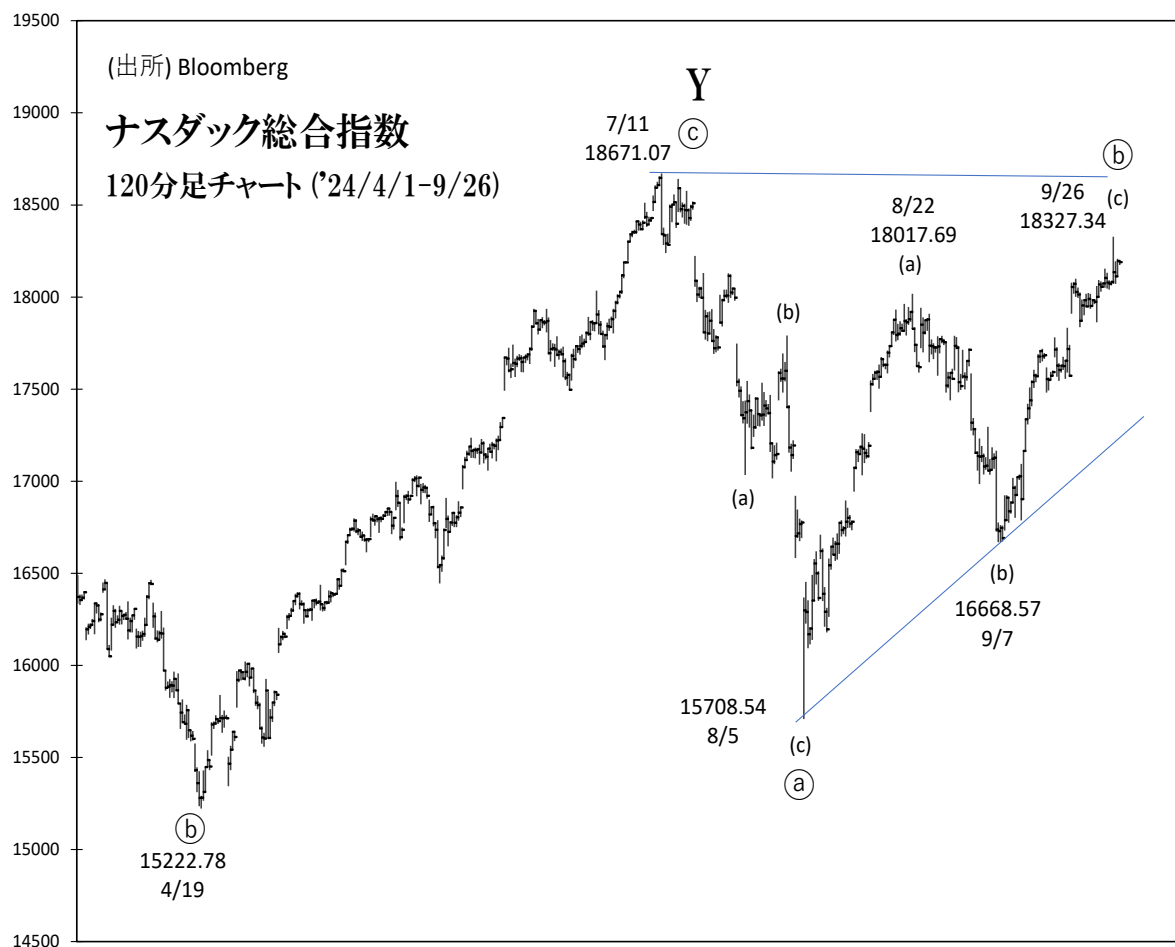
22 年 12 月安値(10,207)以来、(B)波による上昇が進行中です。この(B)波は[トリプル・ジグザグ(W-X-Y-X-Z)]を形成し、それは 25 年前半まで続くでしょう。

18,671(7/11 高値)より、X 波による調整が進行中とみられますが、この X 波は[トライアングル]か、[フラット]を形成中のようなです。

23 年 10 月安値(12,543)と 24 年 8 月安値(15,708)を通る、上昇サポートライン※を維持する限り、Z 波による上昇が 25 年に向けてみられるでしょう。

※10 月第 1 週(9/30～10/4)のサポートライン水準…[16,330]

その反面、サポートラインを終値で明確に下抜くと、18,671(7/11 高値)から既に(C)波による下落トレンドに入っているという見方が台頭します。この場合のナスダックは、中期的に[12,547]を目指す可能性があります。



【時間足 エリオット波動分析】

7 月高値からの X 波は[フラット]か、あるいは[(アセンディング)・トライアングル]((a)-(b)-(c)-(d)-(e))を形成中と思われます。

15,708(8/5 安値)までを三波構成による②波、そこからは三波構成による③波とみることができます。

9 月 26 日、始値(18,327)は前日終値比 1.35%高で高寄りしましたが、結局それがこの日の高値でした。
この日のローソク足「陰の寄り付き坊主」は、③波終了の暗示かもしれません。

③波完了後には④波による下落となり、それは 16,668(9/7 安値)を下抜く動きとなるでしょう。

米ドル/円



【月足・エリオット波動分析】

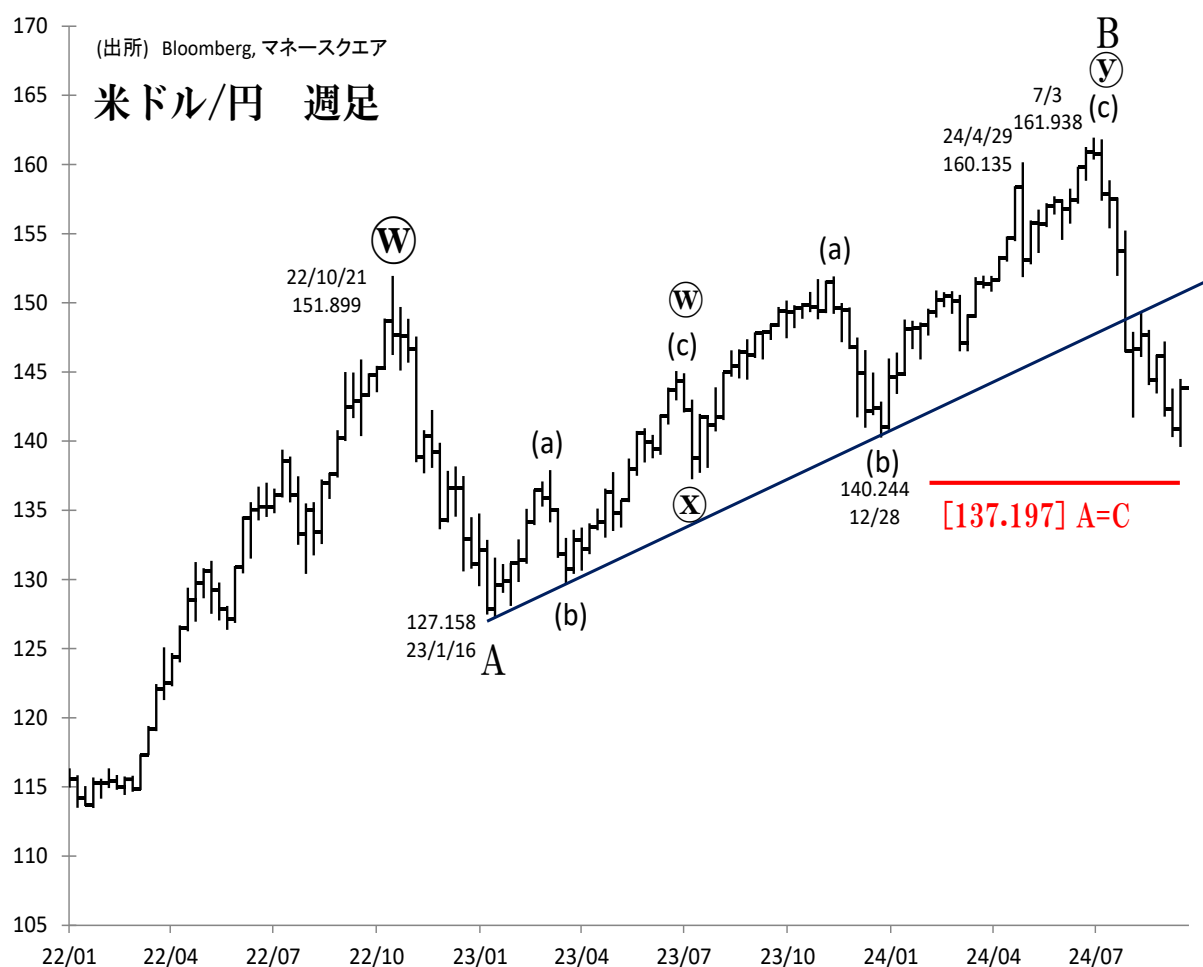
2011年10月の75.570円以来の(A)-(B)-(C)[ジグザグ]による円安(W)波は、151.899円(22/10/21)を以て終わり、そこからは(X)波の「円高局面(トレンドではない)」が進行中です。この(X)波により米ドル/円(ドル/円)は、2028年4月頃までレンジ相場(※)を形成していくでしょう。

161.938円(7/3)は、15年6月・125.860円から9年目に付けた「8年サイクル高値」とみられます。それは(X)波中 B 波高値(イレギュラートップ/不規則天井)に位置付けられ、この波動カウントによれば、いまは(X)波中 C 波によるドル安・円高が進行中です。

22年10月以来の(X)波が描くパターンとして大きくは、①[ランニング・トライアングル]、②[エクスパンディッド・フラット]、これら二通りの可能性があります。なお①のもうひとつのパターンとして[ランニング・フラット]もあげられましょう。

①の場合、現行 C 波は A 波安値(127.158円)を下回りません。C 波は三波で構成され、2011年からの上昇チャネルのセンターライン(↑①)が強いサポートになるでしょう。①の水準は134.635円(9月)です。

一方②の場合には、現行 C 波(五波構成)はチャネル下限(↑②)を目指し、より大きなドル安・円高になることが見込まれます。②の水準は115.010円にあります。



【週足 エリオット波動分析】

22 年 10 月 (151.899 円) からの A(↘)-B(↗)-C(↘) 編成において、23 年 1 月 (127.158 円) からの B 波は 161.938 円 (7/3) を以て完成しました。B 波終点の高値は A 波の始点高値を上回り、不規則天井 (イレギュラー・トップ) を形成しました。

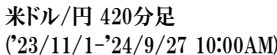
161.938 円 (7/3) からは、C 波によるドル安・円高です。

C 波の長さについては、A 波が有効な「ものさし」になります。

A 波の長さは 24.741 円 (およそ 25 円) でしたから、C 波の長さも同様と考えると、**137 円辺り (厳密には 137.197 円) が C 波のターゲット**です。

なお 137 円を下抜くケースでは、先述した [134.635 円] のほか、[131.358 円] に注目です。

[131.358 円]…A 波の長さ (24.741 円) $\times$ 1.236 = C 波の長さ (30.579 円)



ドル/円は 139.565 円(9/16)から急反発しています。この波は、149.289 円(8/16)以来のマル v 波中、第 (iv)波とみられます。マル v 波のパターンは「エクспанディング・ダイアゴナル」でしょう。

8 月 16 日からの円高に対し 61.8%戻り水準は[145.574 円]。この付近で第(iv)波は頭打ちとなり、第(v)波によるドル安・円高開始となるでしょう。第(v)波は 139.565 円を下抜き、さらに[137.197 円]を試す可能性があります。

一方、ドル/円上昇がなおも続き、147.165 円(9/3)を一時的にも上抜くようなら、上記波動カウントは成立しません。

この場合の代替カウントは、141.630 円(8/5)を起点に⑥波による戻りが展開中、というものです。⑥波パターンは「エクспанディッド・フラット」、139.565 円からは⑥-(c)波です。⑥-(c)波は 149.289 円を上抜き、150 円台前半への上昇余地がありますが、その後は©波によるドル安・円高となるでしょう。

※9 月マンスリー・フォーカス(9/5 発行)では、長期サイクルに基づき 2032 年までのドル/円見通しを書いています。こちらも併せてご覧ください。

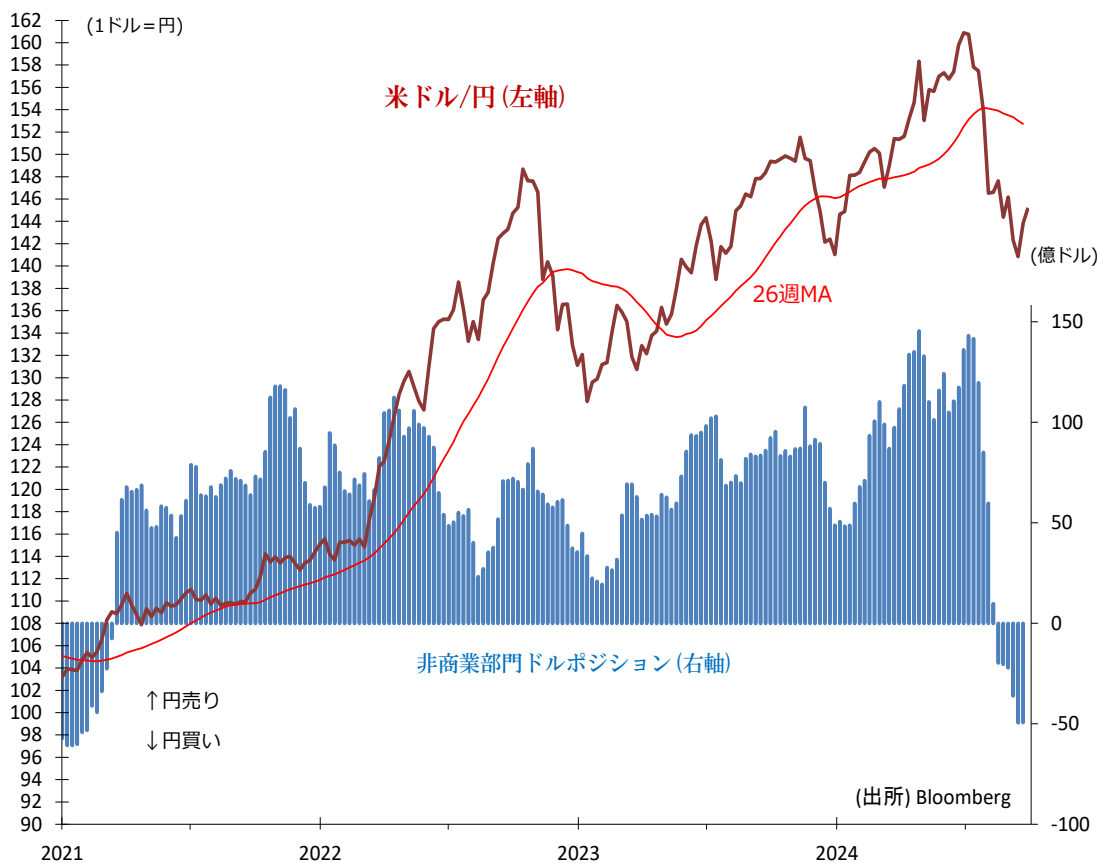
円買いポジションは 5 週連続で増加

IMM 通貨先物市場での非商業部門(投機筋&ヘッジファンド)のドルポジションは、8 月 13 日に 3 年 5 カ月ぶりに円買い越しに転じました。

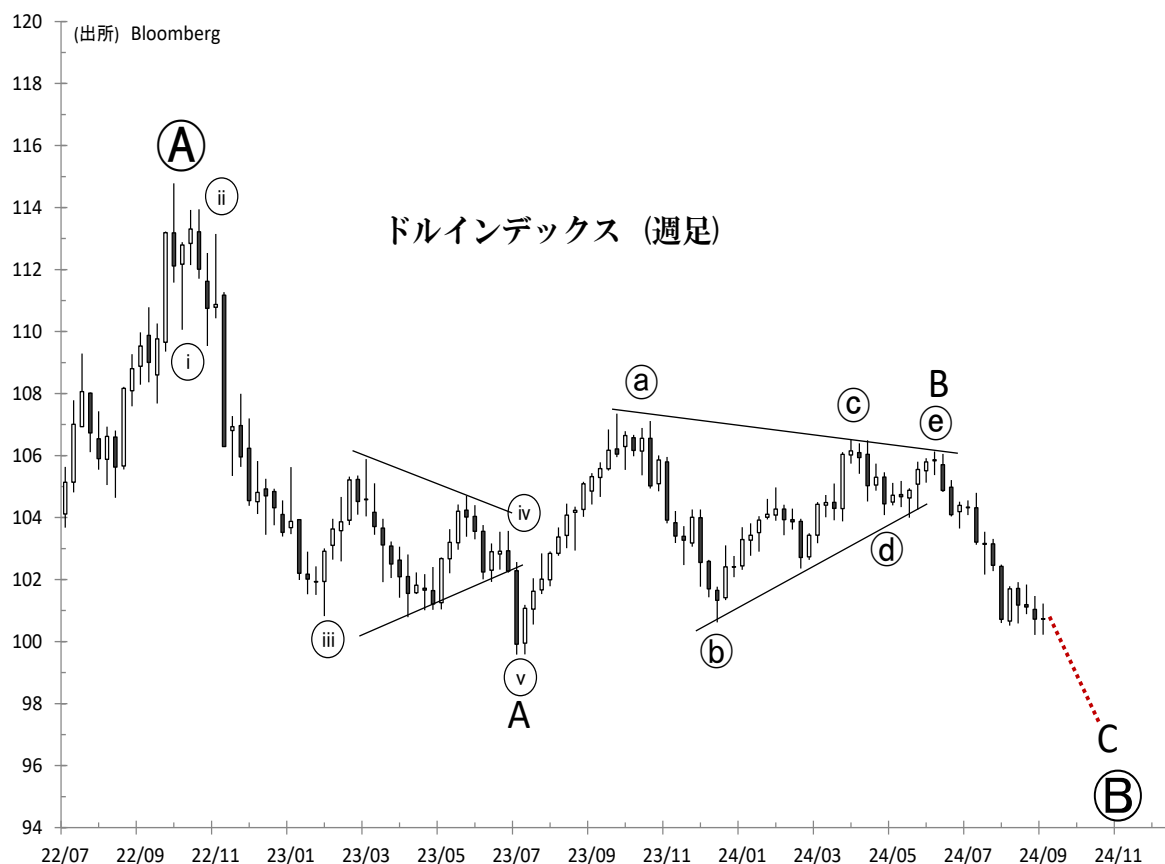
9 月 17 日時点の投機筋ポジションは、5.68 万枚(49.89 億ドル)の円買い持ち。円買いポジションの増加は 5 週連続です。

筆者の観測では、投機筋は 26 週 MA をドル/円の強弱判定の目安としています。

ドル/円が 26 週 MA(152.490 円)を下回っている間は、投機筋によるドル売り・円買いの動きは今後も継続する可能性があります。



ドルインデックス (ドル指数)



【週足 エリオット波動分析】

22 年 9 月高値(114.778)以来、ドルインデックス(ドル指数)はⒺ波による下落局面にあります。

23 年 7 月安値(99.578)を起点とする B 波は、1 年間かけて[トライアングル]を完成し、現在は C 波によるドル安が進行中です。9 月 18 日には一時 100.215 と、1 年 2 カ月ぶりドル安になりました。

近日中にも 23 年安値(99.578)を試し、それを下抜くでしょう。

99.578 を下回ってからのドル指数ターゲットは[92.148](N 計算値)です。

Ⓔ波は最終的に、[90.930]、[89.209]を試す可能性があります。前者は A 波と C 波が等しく下がる水準、後者は 21 年 1 月に付けた、Ⓐ波のレサラー・ディグリー(4)波安値です。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引および取引所株価指数証拠金取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもあります。お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引および取引所株価指数証拠金取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・取引所株価指数証拠金取引における委託手数料は注文が成立した日の取引終了後の値洗い処理終了時に証拠金預託額より、新規および決済取引のそれぞれに徴収いたします。手数料額は、通常 1 枚あたり片道 303 円(税込)、NY ダウリセット付証拠金取引および NASDAQ100 リセット付証拠金取引は 1 枚あたり片道 33 円(税込)です(ただし、建玉整理における委託手数料は無料です)。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差(スプレッド)があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率(為替リスク想定比率)を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率(為替リスク想定比率)は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。取引所株価指数証拠金取引に必要な証拠金額は、商品ごとに当社が定める 1 枚あたりの必要証拠金の額に建玉数量を乗じる一律方式により計算されますが、1 枚あたりの必要証拠金額は変動いたします。

金融商品取引業 関東財務局長(金商)第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
